

## ローマ散策 Part II ピラネージのみた夢

主催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送  
 助成：財団法人 地域創造  
 協賛：JR東海  
 会期：2004年1月2日(金)～2月15日(日)

イタリアの版画家ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ(1720-1778)は、「ローマ」という都市のイメージを、18世紀のヨーロッパ中に流布した。彼の作品は地誌的に正確な側面を持ちながらも、これを大いに誇張し、莫大な歴史の積み重ねを表現するものであった。

本展覧会ではまず第一に、ピラネージの作品をご覧いただくとともに、彼と前後する作家たちの描いたローマの景観図とを比較した。これにより、ピラネージ描くところの景観図が、当時いかに驚嘆すべきイメージを持っていたかを示した。この比較は、彼の作品に見られる「地誌的な正確さ」が、必ずしも視覚的な再現を目指したのではなく、むしろ知的に再構築された「あるべきローマの姿」であることを教えてくれるものでもあった。またピラネージが最初期に影響を受けたであろう舞台デザインをご覧いただくことで、彼の作品の持つ「驚異の感覚」がどのようにして培われていったのか、その一端を展示することを目指した。

第二に、「あるべきローマの姿」としてピラネージが試みた、『古代ローマのカンプス・マルティウス』を取り上げた。考古学者として実際の調査に基づきつつ、自らの綺想を加えて描き出されたこの作品を取り上げることで、彼が見た「ローマ」の姿を明らかにするべく努め、さらにこの文脈で『牢獄』連作を紹介した。

本展覧会は、ピラネージの全画業を包括的に紹介しようとするものではなく、彼が終生抱き続け、描き続けた「ローマというイメージ」を抽出しようという試みであった。ローマに向けたその視線を検証することで、続く時代の「見えるがままの風景」への視線を、逆に照らし出すことをも試みた。

### 関連事業

#### 連続講演会

- 1階講堂にて 午後2時～ 無料、申込不要  
 ・1月25日(日)「建築家ピラネージのローマ」  
 岡田哲史氏(建築家・滋賀県立大学助教授)  
 ・2月1日(日)「永遠の都ローマ」  
 石鍋真澄氏(美術史家・成城大学教授)  
 ・2月8日(日)「ローマ都市の見方」  
 板屋 緑氏(建築家・武蔵野美術大学教授)

#### 美術講座

1階講座室にて 14:00～15:30

無料、申込不要

1月31日(土)「ローマ散策」

新田建史(当館学芸員)

学芸員によるフロア・レクチャー

2階展示室にて 13:00～ 要観覧料

1月2日(金) および毎週土曜日

ミュージアム・コンサート

1階エントランスにて 14:00～15:00

無料、申込不要

2月11日(水・祝)「リコーダー、パロック・ヴァイオリン、チェンバロによる午後のひととき」

石和美和氏、丹沢広樹氏、杉山佳代氏

協力：静岡音楽館AOI

ボランティアによるギャラリー・トーク

各日14:00、15:00よりの2回、各回約20分。

1月15日(木)、16日(金)、22日(木)、23日(金)、  
 29日(木)、30日(金)、2月6日(金)、12日(木)、  
 13日(金)

### カタログ

A5版 116ページ

ごあいさつ

目次 謝辞

特集 ピラネージとローマ

第1章 古代ローマへの眼差し

第2章 幻想のローマ

第3章 ローマの景観

エッセイ 「ピラネージのみた夢」

新田建史(当館学芸員)

作家解説

参考文献

作品データ

## 関連記事

### 新聞記事

- 1月3日(土) 静岡新聞
- 1月7日(水) 静岡新聞朝刊第5面
- 2月3日(火) 朝日新聞夕刊第12面

### ラジオ・テレビ

- 12月23日(火) FM-Hi出演
- 1月11日(日) 静岡放送 テレテレビ取材  
(1月17日(土) 放送)
- 1月13日(火) SBSラジオ こんにちは県庁です取材  
(1月14日(水) 9:15放送)
- 1月14日(水) FMしみず取材
- 1月15日(木) SBSラジオ取材 (16:40頃生放送)
- 1月25日(日) NHK新日曜美術館アートシーン  
(9:00~10:00、20:00~21:00)

### 雑誌

- 『浜松百撰』2004年1月号、p.114
- 『月刊アルファガイド』2004年1月号、p.22
- 『ぴあ』2004年1月13日号、p.87
- 『Signs & Displays』2004年1月、No.529、p.61

### その他

- 『日本の美術館と企画展ガイド 2003-'04.3』  
淡交社、2003年、p.7

出品目録 p.105参照



ポスター



カタログ